

I. 心身機能

I. 心身機能

心身機能とは、身体系の生理的機能（心理的機能を含む）である。
機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

ICFコード・項目	第1 評価点
I. 心身機能	
1. 精神機能	
[個別的な精神機能]	
b140 注意機能	
b144 記憶機能	
b147 精神運動機能	
b164 高次認知機能	
b167 言語に関する精神機能	
b172 計算機能	
b176 複雑な運動を順序立てて行う精神機能	
b180 自己と時間の経験の機能	
2. 感覚機能と痛み	
[聴覚と前庭の機能]	
b235 前庭機能	
[その他の感覚機能]	
b250 味覚	
b255 嗅覚	
b260 固有受容覚	
b265 触覚	
b270 温度やその他の刺激に関連した感覚機能	
b279 その他の特定の、および詳細不明の、その他の感覚機能	
3. 音声と発話の機能	
[音声と発話の機能]	
b340 代替性音声機能	
b398 その他の特定の、音声と発話の機能	
b399 詳細不明の、音声と発話の機能	
4. 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
[呼吸器系の機能]	
b445 呼吸筋の機能	
b449 その他の特定の、および詳細不明の、呼吸器系の機能	
[心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚]	
b450 その他の呼吸機能	
b469 その他の特定の、および詳細不明の、心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚	
b498 その他の特定の、心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
b499 詳細不明の、心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	

5. 消化器系・代謝系・内分泌系の機能	
[消化器系に関する機能]	
b520	同化機能
[代謝と内分泌系に関連する機能]	
b550	体温調節機能
b559	その他の特定の、および詳細不明の、代謝と内分泌系に関連する機能
b598	その他の特定の、消化器系・代謝系・内分泌系の機能
b599	詳細不明の、消化器系・代謝系・内分泌系の機能
6. 尿路・性・生殖の機能	
[性と生殖の機能]	
b670	性と生殖の機能に関連した感覚
b679	その他の特定の、および詳細不明の、性と生殖の機能
b698	その他の特定の、尿路・性・生殖の機能
b699	詳細不明の、尿路・性・生殖の機能
7. 神経筋骨格と運動に関連する機能	
[筋の機能]	
b735	筋緊張の機能
b740	筋の持久性機能
[運動機能]	
b750	運動反射機能
b760	随意運動の制御機能
b780	筋と運動機能に関連した感覚
b798	その他の特定の、神経筋骨格と運動に関連する機能
8. 皮膚および関連する構造の機能	
[皮膚の機能]	
b830	その他の皮膚の機能
b849	その他の特定の、および詳細不明の、皮膚の機能
[毛と爪の機能]	
b898	その他の特定の、皮膚および関連する構造の機能
b899	詳細不明の、皮膚および関連する構造の機能

II. 身体構造

II. 身体構造

身体構造：器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。
機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

脳の構造

ICFコード・項目	第1 評価点	第2 評価点
II. 身体構造		
1. 神経系の構造		
s130 髄膜の構造		
s140 交感神経系の構造		
s150 副交感神経系の構造		
2. 目・耳および関連部位の構造		
s240 外耳の構造		
s250 中耳の構造		
s299 詳細不明の、目・耳および関連部位の構造		
3. 音声と発話に関わる構造		
s310 鼻の構造		
s330 咽頭の構造		
s340 喉頭の構造		
4. 心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
s430 呼吸器系の構造		
s498 その他の特定の、心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
s499 詳細不明の、心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
5. 消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造		
s510 唾液腺の構造		
s520 食道の構造		
s598 その他の特定の、消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造		
s599 詳細不明の、消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造		
6. 尿路生殖器系および生殖系に関連した構造		
s620 骨盤底の構造		
s698 その他の特定の、尿路生殖器系および生殖系に関連した構造		
s699 詳細不明の、尿路生殖器系および生殖系に関連した構造		
7. 運動に関連した構造		
s770 運動に関連したその他の筋骨格構造		
s798 その他の特定の、運動に関連した構造		
s799 詳細不明の、運動に関連した構造		
8. 皮膚および関連部位の構造		
s820 皮膚の腺の構造		
s898 その他の特定の、皮膚および関連部位の構造		
s899 詳細不明の、皮膚および関連部位の構造		

Ⅲ. 活動と参加

<p>Ⅲ. 活動と参加</p> <p>活動とは、課題や行為の個人による遂行のことである。 参加とは、生活・人生場面への関わりのことである。 活動制限とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。 参加制約とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。</p>

ICFコード・項目	実行状況	能力
Ⅲ. 活動と参加		
1. 学習と知識の応用		
[基礎的学習]		
d135 反復		
d140 読むことの学習		
d145 書くことの学習		
d150 計算の学習		
d155 技能の習得		
[知識の応用]		
d166 読むこと		
d170 書くこと		
d172 計算		
2. 一般的な課題と要求		
[一般的な課題と要求]		
d210 単一課題の遂行		
d298 その他の特定の、一般的な課題と要求		
d299 詳細不明の、一般的な課題と要求		
3. コミュニケーション		
[コミュニケーションの表出]		
d345 書き言葉によるメッセージの表出		
d349 その他の特定の、および詳細不明の、コミュニケーションの表出		
[会話ならびにコミュニケーション用具および技法の利用]		
d360 コミュニケーション用具および技法の利用		
d369 その他の特定の、および詳細不明の、会話とコミュニケーション用具および技法の利用		
d398 その他の特定のコミュニケーション		
d399 詳細不明のコミュニケーション		
4. 運動・移動		
[姿勢の変換と保持]		
d410 基本的な姿勢の変換		
d420 乗り移り(移乗)		
[物の運搬・移動・操作]		
d430 持ち上げることと運ぶこと		
d435 下肢を使って物を動かすこと		
d445 手と腕の使用		
d449 その他の特定の、および詳細不明の、物の運搬・移動・操作		
[歩行と移動]		
d460 さまざまな場所での移動		
d469 その他の特定の、および詳細不明の、歩行と移動		

5. セルフケア		
[セルフケア]		
d510	自分の身体を洗うこと	
d520	身体各部の手入れ	
d540	更衣	
6. 家庭生活		
[家事]		
d640	調理以外の家事	
[家事用品の管理および他者への援助]		
d669	その他の特定の、および詳細不明の、家庭用品の手入れと他者への援助	
d698	その他の特定の家庭生活	
d699	詳細不明の家庭生活	
7. 対人関係		
[特別な対人関係]		
d740	公的な関係	
d750	非公式な社会的関係	
d779	その他の特定の、および詳細不明の、特別な対人関係	
d798	その他の特定の対人関係	
8. 主要な生活領域		
[教育]		
d825	職業訓練	
[仕事と雇用]		
d840	見習研修(職業準備)	
d845	仕事の獲得・維持・終了	
d850	報酬を伴う仕事	
d855	無報酬の仕事	
[経済生活]		
d865	複雑な経済的取引	
9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活		
[コミュニティライフ・社会生活・市民生活]		
d930	宗教とスピリチュアリティ	
d940	人権	
d950	政治活動と市民権	

IV. 環境因子

IV. 環境因子		第1 評価点
ICFコード・項目		第1 評価点
IV. 環境因子		
1. 製品と用具		
e130	教育用の製品と用具	
e135	仕事用の製品と用具	
e150	公共の建物の設計・建設用の製品と用具	
e155	私用の建物の設計・建設用の製品と用具	
e160	土地開発関連の製品と用具	
2. 自然環境と人間がもたらした環境変化		
e210	自然地理	
e215	人口・住民	
e220	植物相と動物相	
e225	気候	
e260	空気の質	
3. 支援と関係		
e320	友人	
e325	知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員	
e330	権限をもつ立場にある人々	
e340	対人サービス提供者	
e398	その他の特定の、支援と関係	
e399	詳細不明の、支援と関係	
4. 態度		
e425	知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度	
e430	権限をもつ立場にある人々の態度	
e435	下位の立場にある人々の態度	
e460	社会的態度	
e465	社会的規範・慣行・イデオロギー	
5. サービス・制度・政策		
e510	消費財生産のためのサービス・制度・政策	
e515	建築・建設に関連するサービス・制度・政策	
e535	コミュニケーションサービス・制度・政策	
e540	交通サービス・制度・政策	
e545	市民保護サービス・制度・政策	
e550	司法サービス・制度・政策	
e555	団体と組織に関するサービス・制度・政策	
e585	教育と訓練のサービス・制度・政策	

V. 個人因子

V. 個人因子

個人因子とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなる。これには、性別、人種、年齢、その他の健康状態、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難へ対処方法、社会的背景、教育歴、職業、過去および現在の経験（過去や現在の人生の出来事）、全体的な行動様式、性格、個人の心理的資質、その他の特質などが含まれるであろうし、これらは全部または一部が、どのレベルの障害においても一定の役割をもちうる。個人因子はICFには分類としては含まれていないが、その関与を示すために「ICF関連図」に含まれている。この因子の関与は、さまざまな介入の結果にも影響する。

※必須入力

01. 生年月	※	年	月	(西暦)
02. 年齢	※	歳		
03. 性別	※	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女	
04. 主病名	※			
05. 合併症				
06. 障害者手帳	<input type="radio"/> 1. 手帳あり	<input type="radio"/> 2. 未所持	<input type="radio"/> 3. 不明	
	<input type="checkbox"/> (1) 身体障害	<input type="radio"/> (a) 1級	<input type="radio"/> (b) 2級	<input type="radio"/> (c) 3級
		<input type="radio"/> (d) 4級	<input type="radio"/> (e) 5級	<input type="radio"/> (f) 6級
	<input type="checkbox"/> (2) 知的障害	<input type="radio"/> (a) A	<input type="radio"/> (b) A 1	<input type="radio"/> (c) A 2
	<input type="radio"/> (d) B 1	<input type="radio"/> (e) B 2		
<input type="checkbox"/> (3) 精神障害	<input type="radio"/> (a) 1級	<input type="radio"/> (b) 2級	<input type="radio"/> (c) 3級	
07. 障害程度区分	<input type="radio"/> 1. 非該当	<input type="radio"/> 2. 区分1	<input type="radio"/> 3. 区分2	<input type="radio"/> 4. 区分3
	<input type="radio"/> 5. 区分4	<input type="radio"/> 6. 区分5	<input type="radio"/> 7. 区分6	<input type="radio"/> 8. 未申請
08. 経済（収入）	<input type="radio"/> 1. あり	<input type="radio"/> 2. なし		
	<input type="checkbox"/> (1) 所得	<input type="checkbox"/> (2) 公的年金	<input type="checkbox"/> (3) 生活保護	
09. 既往歴				
10. 生活歴				
11. 現病歴				
12. 入院歴				
13. その他 (趣味・嗜好など)				

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	
7. 衝動的な行動や姿勢	風変わり、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	

ICF (国際生活機能分類) 短縮版 (試作) & BPRS (簡易精神症状評価尺度)

会員番号 _____ (ハイフンなし半角数字4桁 例:0199)

病院名 _____

担当者名 _____ 連絡先TEL _____

患者ID _____ (半角英数)

実施日 _____ (入力例: 2015/1/10 または H27/1/10)

登録件数 **0** 件

Menu

患者ID毎処理

入力エリア

※続けて[読込]する場合は、一度[クリア]をします

データファイル
処理

ICF（国際生活機能分類）

国際生活機能分類（ICF）とは、人間のあらゆる健康状態に関係した生活機能状態から、その人をとりまく社会制度や社会資源までをアルファベットと数字を組み合わせた方式で分類し、記述・表現をしようとするものである。ICFでは、人間の生活機能と障害について、「心身機能・身体構造」、「活動と参加」、それに影響を及ぼす「環境因子」について、合計約1500項目に分類している。

それぞれの項目は、アルファベットと数字を組み合わせた方式でコード化され、アルファベットは、「b」、「s」、「a」、「p」、「e」が用いられ、それぞれ「心身機能」、「身体構造」、「活動」、「参加」、「環境」を意味している。また、文字の後に続く数字は、左から1桁目が第1レベル（章番号）、それに続く3桁めまでが第2レベルの分類、4桁めまでが第3レベルの分類、5桁で第4レベルの分類と、だんだんと細分化された分類の構造となっている。

このICFは、世界保健機関（WHO）において、1980年に国際疾病分類（ICD）の補助として発表された、機能障害と社会的不利に関する分類であるWHO国際障害分類（ICIDH）の改訂版として、2001年5月ジュネーブで開かれた第54回WHO総会において採択がなされたものである。

この改正により、国際障害分類の内容が大幅に見直しがなされ、ICFとして充実された。その最も大きな特徴は、単に心身機能の障害による生活機能の障害を分類するという考え方でなく、活動や社会参加、特に環境因子というところに大きく光を当てていこうとする点である。

例えば、同じレベルの機能障害があつたとしても、段差のない道路や、駅のエレベーターなどが整備されているバリアフリーの環境で生活すれば、そうした整備が遅れている環境で生活することと較べて、格段に活動や参加のレベルが向上することとなる。ICFにおいては、環境因子の中に「e120 個人的な屋内外の移動と交通のための製品と用具」などの項目が設定され、こうした環境を評価することができるように構成されている。このようなICFの考え方は、今後

はじめに

背景

ICF関連図

ICF概観

I 心身機能

II 身体構造

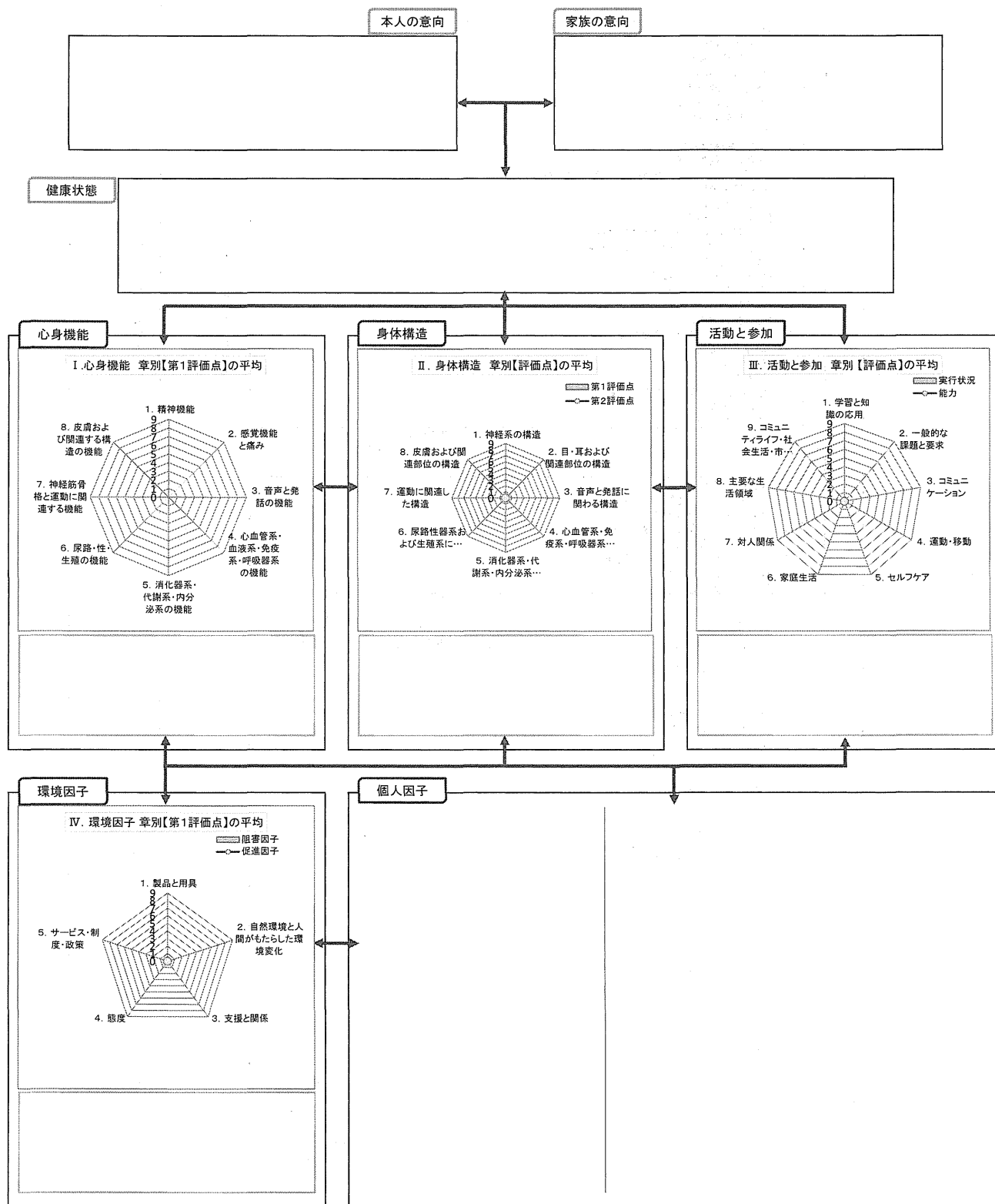
III 活動と参加

IV 環境因子

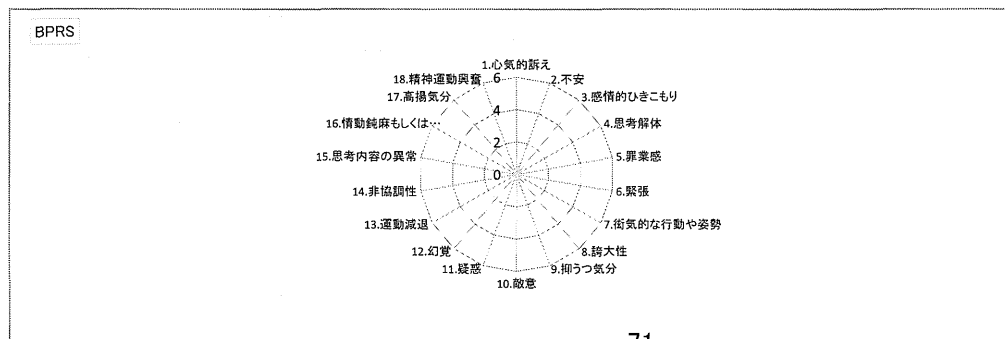
V 個人因子

コード一覧

グラフの設定: 全評価点を反映させる



IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています



BPRS

合計	_____	点
値が6以上の個数		
_____		個

ICF概観

第1部 生活機能と障害				
領域:	構成概念:	肯定的側面:	否定的側面:	
I. 心身機能	心身機能	心身機能の変化(生理的)		
1. 精神機能 [全般的精神機能] [個別的精神機能] 2. 感覚機能と痛み [視覚及び関連機能] [聴覚と前庭の機能] [その他の感覚機能] [痛み] 3. 音声と発話の機能 [音声と発話の機能] 4. 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能 [心血管系の機能] [血液系と免疫系の機能] [呼吸器系の機能] [心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚] 5. 消化器系・代謝系・内分泌系の機能 [消化器系に関する機能] [代謝と内分泌系に関連する機能] 6. 尿路・性・生殖の機能 [尿路機能] [性と生殖の機能] 7. 神経筋骨格と運動に関連する機能 [関節と骨の機能] [筋の機能] [運動機能] 8. 皮膚および関連する構造の機能 [皮膚の機能] [毛と爪の機能]		機能的・構造的統合性	機能障害(構造障害を含む)	
II. 身体構造	身体構造	身体構造の変化(解剖学的)		
1. 神経系の構造 2. 目・耳および関連部位の構造 3. 音声と発話に関わる構造 4. 心血管系・免疫系・呼吸器系の構造 5. 消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造 6. 尿路性器系および生殖系に関連した構造 7. 運動に関連した構造 8. 皮膚および関連部位の構造		生活機能	障害	
III. 活動と参加	生活・人生領域(課題、行為)	能力: 標準的環境における課題の遂行 実行状況: 現在の環境における課題の遂行		
1. 学習と知識の応用 [目的をもった感覚的経験] [基礎的学習] [知識の応用] 2. 一般的な課題と要求 [一般的な課題と要求] 3. コミュニケーション [コミュニケーションの理解] [コミュニケーションの表出] [会話ならびにコミュニケーション用具および技法の利用] 4. 運動・移動 [姿勢の変換と保持] [物の運搬・移動・操作] [歩行と移動] [交通機関や手段を利用した移動] 5. セルフケア [セルフケア] 6. 家庭生活 [必需品の入手] [家事] [家事用品の管理および他者への援助] 7. 対人関係 [一般的な対人関係] [特別な対人関係] 8. 主要な生活領域 [教育] [仕事と雇用] [経済生活] 9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活 [コミュニティライフ・社会生活・市民生活]		活動参加	活動制限 参加制約	
第2部 背景因子				
領域:	構成概念:	肯定的側面:	否定的側面:	
IV. 環境因子	生活機能と障害への外的影響	物的環境や社会的環境、人々に社会的な態度による環境の特徴が持つと促進的あるいは阻害的な影響力		
1. 製品と用具 2. 自然環境と人間がもたらした環境変化 3. 支援と関係 4. 態度 5. サービス・制度・政策		促進因子	阻害因子	
V. 個人因子	生活機能と障害への内的影響	個人的な特徴の影響力		
01. 生年月 02. 年齢 03. 性別 04. 主病名 05. 合併症 06. 障害者手帳 07. 障害程度区分 08. 経済(収入) 09. 既往歴 10. 生活歴 11. 現病歴 12. 入院歴 13. その他				

I. 心身機能

I. 心身機能

心身機能とは、身体系の生理的機能（心理的機能を含む）である。
機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

ICFコード・項目	第1 評価点
I. 心身機能	
1. 精神機能	
[個別的な精神機能]	
b140 注意機能	
b144 記憶機能	
b167 言語に関する精神機能	
b172 計算機能	
b176 複雑な運動を順序立てて行う精神機能	
b180 自己と時間の経験の機能	
2. 感覚機能と痛み	
[その他の感覚機能]	
b250 味覚	
b255 嗅覚	
b260 固有受容覚	
b265 触覚	
b279 その他の特定の、および詳細不明の、その他の感覚機能	
3. 音声と発話の機能	
[音声と発話の機能]	
b340 代替性音声機能	
b398 その他の特定の、音声と発話の機能	
b399 詳細不明の、音声と発話の機能	
4. 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
[呼吸器系の機能]	
b445 呼吸筋の機能	
[心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚]	
b469 その他の特定の、および詳細不明の、心血管系と呼吸器系の付加的機能と感覚	
b498 その他の特定の、心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
b499 詳細不明の、心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
5. 消化器系・代謝系・内分泌系の機能	
[代謝と内分泌系に関連する機能]	
b550 体温調節機能	
b559 その他の特定の、および詳細不明の、代謝と内分泌系に関連する機能	
b598 その他の特定の、消化器系・代謝系・内分泌系の機能	
b599 詳細不明の、消化器系・代謝系・内分泌系の機能	
6. 尿路・性・生殖の機能	
[性と生殖の機能]	
b679 その他の特定の、および詳細不明の、性と生殖の機能	
b698 その他の特定の、尿路・性・生殖の機能	
b699 詳細不明の、尿路・性・生殖の機能	

7. 神経筋骨格と運動に関連する機能	
[筋の機能]	
b735	筋緊張の機能
b740	筋の持久性機能
[運動機能]	
b760	随意運動の制御機能
b780	筋と運動機能に関連した感覚
b798	その他の特定の、神経筋骨格と運動に関連する機能
8. 皮膚および関連する構造の機能	
[皮膚の機能]	
b830	その他の皮膚の機能
b849	その他の特定の、および詳細不明の、皮膚の機能
[毛と爪の機能]	
b898	その他の特定の、皮膚および関連する構造の機能

II. 身体構造

II. 身体構造

身体構造：器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。
機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

脳の構造

ICFコード・項目	第1 評価点	第2 評価点
II. 身体構造		
1. 神経系の構造		
s130 髄膜の構造		
s140 交感神経系の構造		
s150 副交感神経系の構造		
2. 目・耳および関連部位の構造		
s240 外耳の構造		
s250 中耳の構造		
s299 詳細不明の、目・耳および関連部位の構造		
3. 音声と発話に関わる構造		
s310 鼻の構造		
s330 咽頭の構造		
s340 喉頭の構造		
4. 心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
s430 呼吸器系の構造		
s498 その他の特定の、心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
s499 詳細不明の、心血管系・免疫系・呼吸器系の構造		
5. 消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造		
s510 唾液腺の構造		
s520 食道の構造		
s599 詳細不明の、消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造		
6. 尿路性器系および生殖系に関連した構造		
s620 骨盤底の構造		
s698 その他の特定の、尿路性器系および生殖系に関連した構造		
s699 詳細不明の、尿路性器系および生殖系に関連した構造		
7. 運動に関連した構造		
s770 運動に関連したその他の筋骨格構造		
s798 その他の特定の、運動に関連した構造		
s799 詳細不明の、運動に関連した構造		
8. 皮膚および関連部位の構造		
s820 皮膚の腺の構造		
s898 その他の特定の、皮膚および関連部位の構造		
s899 詳細不明の、皮膚および関連部位の構造		

Ⅲ. 活動と参加

<p>Ⅲ. 活動と参加</p> <p>活動とは、課題や行為の個人による遂行のことである。 参加とは、生活・人生場面への関わりのことである。 活動制限とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。 参加制約とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。</p>

ICFコード・項目	実行状況	能力
Ⅲ. 活動と参加		
1. 学習と知識の応用		
[基礎的学習]		
d140 読むことの学習		
d145 書くことの学習		
d150 計算の学習		
d155 技能の習得		
[知識の応用]		
d166 読むこと		
d172 計算		
2. 一般的な課題と要求		
[一般的な課題と要求]		
d210 単一課題の遂行		
d298 その他の特定の、一般的な課題と要求		
d299 詳細不明の、一般的な課題と要求		
3. コミュニケーション		
[コミュニケーションの表出]		
d345 書き言葉によるメッセージの表出		
[会話ならびにコミュニケーション用具および技法の利用]		
d360 コミュニケーション用具および技法の利用		
d369 その他の特定の、および詳細不明の、会話とコミュニケーション用具および技法の利用		
d398 その他の特定のコミュニケーション		
4. 運動・移動		
[姿勢の変換と保持]		
d420 乗り移り(移乗)		
[物の運搬・移動・操作]		
d430 持ち上げることと運ぶこと		
d435 下肢を使って物を動かすこと		
d445 手と腕の使用		
[歩行と移動]		
d460 さまざまな場所での移動		
d469 その他の特定の、および詳細不明の、歩行と移動		
5. セルフケア		
[セルフケア]		
d510 自分の身体を洗うこと		
d520 身体各部の手入れ		
d540 更衣		

6. 家庭生活		
[家事]		
d640	調理以外の家事	
[家事用品の管理および他者への援助]		
d669	その他の特定の、および詳細不明の、家庭用品の手入れと他者への援助	
d698	その他の特定の家庭生活	
7. 対人関係		
[特別な対人関係]		
d740	公的な関係	
d750	非公式な社会的関係	
d779	その他の特定の、および詳細不明の、特別な対人関係	
8. 主要な生活領域		
[仕事と雇用]		
d840	見習研修(職業準備)	
d845	仕事の獲得・維持・終了	
d850	報酬を伴う仕事	
d855	無報酬の仕事	
[経済生活]		
d865	複雑な経済的取引	
9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活		
[コミュニティライフ・社会生活・市民生活]		
d930	宗教とスピリチュアリティ	
d940	人権	
d950	政治活動と市民権	

IV. 環境因子

IV. 環境因子
環境因子とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

ICFコード・項目	第1 評価点
IV. 環境因子	
1. 製品と用具	
e130 教育用の製品と用具	
e150 公共の建物の設計・建設用の製品と用具	
e155 私用の建物の設計・建設用の製品と用具	
e160 土地開発関連の製品と用具	
2. 自然環境と人間がもたらした環境変化	
e210 自然地理	
e220 植物相と動物相	
e260 空気の質	
3. 支援と関係	
e325 知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員	
e330 権限をもつ立場にある人々	
e398 その他の特定の、支援と関係	
4. 態度	
e425 知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員の態度	
e430 権限をもつ立場にある人々の態度	
e435 下位の立場にある人々の態度	
e460 社会的態度	
5. サービス・制度・政策	
e510 消費財生産のためのサービス・制度・政策	
e515 建築・建設に関連するサービス・制度・政策	
e540 交通サービス・制度・政策	
e545 市民保護サービス・制度・政策	
e550 司法サービス・制度・政策	
e555 団体と組織に関するサービス・制度・政策	

V. 個人因子

V. 個人因子

個人因子とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなる。これには、性別、人種、年齢、その他の健康状態、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難へ対処方法、社会的背景、教育歴、職業、過去および現在の経験（過去や現在の人生の出来事）、全体的な行動様式、性格、個人の心理的資質、その他の特質などが含まれるであろうし、これらは全部または一部が、どのレベルの障害においても一定の役割をもちうる。個人因子はICFには分類としては含まれていないが、その関与を示すために「ICF関連図」に含まれている。この因子の関与は、さまざまな介入の結果にも影響しうる。

※必須入力

01. 生年月	※	年	月	(西暦)
02. 年齢	※	歳		
03. 性別	※	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女	
04. 主病名	※			
05. 合併症				
06. 障害者手帳	<input type="radio"/> 1. 手帳あり	<input type="radio"/> 2. 未所持	<input type="radio"/> 3. 不明	
	<input type="checkbox"/> (1) 身体障害	<input type="radio"/> (a) 1級	<input type="radio"/> (b) 2級	<input type="radio"/> (c) 3級
		<input type="radio"/> (d) 4級	<input type="radio"/> (e) 5級	<input type="radio"/> (f) 6級
	<input type="checkbox"/> (2) 知的障害	<input type="radio"/> (a) A	<input type="radio"/> (b) A 1	<input type="radio"/> (c) A 2
		<input type="radio"/> (d) B 1	<input type="radio"/> (e) B 2	
	<input type="checkbox"/> (3) 精神障害	<input type="radio"/> (a) 1級	<input type="radio"/> (b) 2級	<input type="radio"/> (c) 3級
07. 障害程度区分	<input type="radio"/> 1. 非該当	<input type="radio"/> 2. 区分1	<input type="radio"/> 3. 区分2	<input type="radio"/> 4. 区分3
	<input type="radio"/> 5. 区分4	<input type="radio"/> 6. 区分5	<input type="radio"/> 7. 区分6	<input type="radio"/> 8. 未申請
08. 経済（収入）	<input type="radio"/> 1. あり	<input type="radio"/> 2. なし		
	<input type="checkbox"/> (1) 所得	<input type="checkbox"/> (2) 公的年金	<input type="checkbox"/> (3) 生活保護	
09. 既往歴				
10. 生活歴				
11. 現病歴				
12. 入院歴				
13. その他 (趣味・嗜好など)				

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思ふ。	
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	
7. 衝動的な行動や姿勢	風変わり、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されているもので再び評価する。またここで離人症(妄想性のものも非妄想性のものも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	